

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として開催する総合的な日本文化の発信事業。映画上映会、音楽演奏会、武道デモンストレーション、陶芸・郷土玩具・折り紙作品・生け花等の展示事業、俳句コンクール、日本語弁論大会等を企画・実施する。近年では、アニメ・マンガ等の「ポップカルチャー」や日本の食文化PR等を積極的に奨励。



フランス・ストラスブール
「茶道のレクチャー・
デモンストレーション」

アルザス地方のスルツ市において、同市との共催による茶道レクチャー・デモンストレーションを実施。同時期、同会場にてアルザス欧州日本学研究所が岩手南部鉄器のコレクションと日本の「ものづくり」パネルの展示を行い、相乗効果を図った。



中国・南京
「カワイイファッション・
メイクレクチャー」

メイクアップ界の第一人者であるトニー・タナカ氏によるレクチャー・デモンストレーションに加え、「全国理美容学校kawaii選手権大会」の優秀賞受賞者によるカワイイファッション・メイクのデモンストレーションを実施。



マラウイ
「日本大使杯柔道選手権大会」

マラウイ柔道協会と共催で柔道選手権を開催。日本文化である柔道をアピールするとともに、同協会でも柔道指導を行っていた青年海外協力隊員の貢献も紹介、柔道を通じた対日理解促進に寄与。また教育、スポーツ関係の政府関係者も招き、関係強化を図った。

外務省の施策

国際交流基金事業

外務省が所管する(独)国際交流基金では、展覧会や音楽や舞台芸術の海外公演、様々な分野の専門家の海外派遣、日本映画上映等を実施。他機関とも連携しながら、海外で人気の高い日本のポップカルチャー等への関心を、多様な日本の社会、文化、言語への関心に結びつけ、より深い日本理解に導くことにより、「日本ブランド」の定着を目指す。



フランス(パリ)

「北斎」展

フランス国立美術館連合・グラン・パレとの共催により、葛飾北斎の画業を700点の作品により総合的に紹介する特別展を開催。芸術都市パリの中心部、国立ギャラリーの前には連日長蛇の列ができるほど大人気を博す。会期中36万人が来場。



コスタリカ(サンホセ)

「水木一郎ライブ・コンサート」

日・中米交流年を記念し、「アニメソング界の帝王」水木一郎氏のライブを開催。コスタリカ人気バンドとの共演には大勢のアニメファンが集い、その様子は現地紙・テレビ、ソーシャルメディアを通じて広く共有された。隣接会場では「キャラクター大国、ニッポン」展を開催。



スイス(チューリッヒ) /

ポーランド(クラクフ) / ドイツ(ハレ)

「ロジカル・エモーションー日本現代美術」展

日本・スイス国交樹立150周年を記念し、ハウス・コンストルクティヴ美術館との共催により、「論理的な」要素と「情動的な」要素とが内在する日本の14人の美術家・建築家・デザイナーの作品をジャンル横断的に紹介する企画展を開催。講演会、ワークショップ等の関連イベントも併催。欧州2都市にも巡回し、高い評価を得た。

外務省の施策 国際交流基金：アジア文化交流強化事業

平成25年に開催された日・ASEAN特別首脳会議において、安倍総理が表明した「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア」に基づく各種交流事業を実施（ ）

* 平成25年度補正予算により政府開発援助アジア文化交流強化事業費補助金200億円が一括交付。2020年までの7年間の予算に充当。

国際交流基金内に新設されたアジアセンターを中心として、「日本語パートナーズ」派遣事業、芸術・文化の双方向交流事業を実施

日本語学習支援事業

平成32年(2020年)までの7年間で3,000人以上の日本人をASEAN諸国の教育現場に派遣し、現地の日本語教師と学習者のパートナーとして、授業の補佐や教室内外での日本語や日本文化の紹介活動等、各国の日本語教育支援を行うと同時に、派遣者自身も現地の言語や文化を学び、相互理解を深め、各国との交流の拡大を図る事業。



芸術・文化の双方向交流事業



JFA×Jリーグ連携サッカー交流

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れサッカーを通じた交流を実施。



東京国際映画祭との連携交流事業

アジア映画の紹介、アジア映画人の交流促進、特別賞の授賞等、多面的な交流事業を実施し、相互理解を深め、アジアの才能を世界に発信。



「HANDs! -Hope and Dreams Project!-」

インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、日本から選抜された若手リーダーが、防災教育に取り組むグループ交流・研修事業。

外務省の施策 日本ブランド発信事業

- 「2020年に向けて日本をデザインする」というテーマの下，日本のライフスタイルを変革し，世界に発信しようとする試みを中心に紹介。
- 日本の強みや日本的な価値観，伝統，現代日本を形作る文化的背景等，日本の多様な魅力を海外に発信。日本全体のブランド向上に資することを目指す。
- 発信力のある様々な分野の専門家を海外に派遣，講演会及びワークショップ等を実施。

【目的】

聴衆と価値観や体験を共有し，日本の魅力に対する関心や共感，日本文化に対する理解を促進する。

日本の良さに共感する外国人による再発信を促し，波及効果の拡大を目指す。

将来的には，価値観を共有する人々の国際交流の端緒となること，日本の製品の海外における消費・流通が拡大し海外ビジネス展開に繋がること，日本への観光客が増加することなども視野に入れる。

平成27年度事業例

西陣織～西陣織とファッションの融合について～

（於：アラブ首長国連邦（ドバイ，アブダビ），サウジアラビア（リヤド））

派遣専門家：細尾真孝 株式会社細尾取締役（11月）

能面にみる日本の伝統工芸と仮面文化（於：スロベニア，クロアチア，オーストリア，ルーマニア）

派遣専門家：北澤秀太 北澤木彫所 能面師／伝統工芸師（11月）

日本伝統工芸とデザイン～日本伝統工芸の輝きを次の世代へ～（於：スペイン（バルセロナ））

派遣専門家：矢島里佳 株式会社和える（aeru）代表取締役（7月）

平成26年度事業例（11件，14人）

日本酒セミナー～進化を続ける日本酒醸造のすばらしい世界～（於：オーストラリア（メルボルン））

派遣専門家：大塚真帆 招徳酒造株式会社社氏（3月）

ショートフィルム上映・講演会

（於：サウジアラビア（リヤド），オマーン（マスカット），マレーシア（クアラルンプール））

派遣専門家：別所哲也 ショートショート実行委員会代表（マレーシア）（2月）

東野正剛 同実行委員会フェスティバル・ディレクター（サウジアラビア，オマーン）

町屋文化と再生～危機の時代の文化 市民参加のあり方～（於：イタリア（ミラノ））

派遣専門家：宗田好史 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授（11月）



国際交流基金のオリンピック・パラリンピックに関連する取組 ①



(1) リオデジャネイロ 2016年大会に向けた取組み

2016年8月に開幕するリオ五輪開催直前の時期をピークに、リオ旧市街において文化事業を集中的に実施する。コンセプトは「1964年東京の回顧から、2020年TOKYOへの展望」。日伯共同で、美術、映像、舞台芸術分野の事業を総合的に展開し、世界に向けてアピールする。

1. 展示事業 「日本の前衛美術 1955-1975」(仮称)展

戦後日本の前衛美術をブラジルに初めて紹介。1964年東京五輪を境に大きく変貌を遂げた首都・東京のエネルギーを吸収するような前衛的な作品の数々を紹介する。

- ・会期:2016年7月14日～8月28日(予定) ・会場:パソ・インペリアル美術館
- ・キュレーター:ペドロ・エルバー(コーネル大学准教授) ・企画協力:鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)



2. 映像事業 1950-70年代日本の名作映画特集上映

1950-1970年代に製作された日本の名作映画を取り上げ、特集上映を行う。

- ・会期:2016年7月27日～8月1日(予定) ・会場:ブラジル銀行文化センター
- ・上映作品:『東京オリンピック』(市川崑監督/1965年) 他



3. 公演事業 日伯ポップスコンサート共同制作

Look at the Sky: 上を向いて歩こう ～リオから東京、世界へのメッセージ～

1961年発表、63年全米ヒットチャート1位、64年に全世界に拡散し、更には2014年にオノ・ヨーコの訳詞で *Look at the Sky* となって、時代も国境も越え今なお世界で歌い継がれている「上を向いて歩こう」を日・英・葡語で合唱し、「心の復興」をテーマに、TOKYO2020に繋がる

メッセージを世界に届ける。リオのスラム地区・ファベラでブラジルの青少年と行ったワークショップの成果も披露。

- ・会期:2016年7月29日・30日 ・会場:VIVO (1,500人収容)
- ・出演(予定): <日本>東京スカパラダイスオーケストラ、マルシア
<ブラジル>バネッサ・ダ・マタ、エミシーダ



国際交流基金のオリンピック・パラリンピックに関連する取組 ②

(2) スポーツ・文化・ワールド・フォーラムに向けた取組み

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムとはー

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形のレガシーについて議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベント。リオ大会終了直後の2016年10月に開催予定。国内外のVIPが集まることが見込まれる、外交的に意義の高い催しであり、2020年に向けた国際的な文化イベントとも位置づけられる。

1. 杉本博司・野村萬斎 三番叟公演

フォーラム最終日に、世界各国からの招待客及び一般を対象として、日本を代表する一流文化人による特別公演を企画・実施。

- ・日時:2016年10月21日 19時00分～20時00分
- ・会場:Bunkamura オーチャードホール (2,150人収容)
- ・企画・美術:杉本博司 ・主演:野村萬斎 ・演目:三番叟



2. パラリンピック関連パフォーマンス/プレゼンテーション、シンポジウム

ロンドン五輪のレガシーを継承し、既成の概念を覆す「障害者」が参加するパフォーマンスやプレゼンテーションを実施。最先端の科学技術の応用が主要テーマ。最先端科学技術により開発した装置を活用しての身体表現や、先端のプロダクトデザインによる義足のファッションショー等を紹介する。また、文化庁及びブリティッシュ・カウンシルと共催で、障害と芸術をテーマとしたシンポジウムを企画・実施。

- ・時期:2016年10月21日、22日 ・会場:国立新美術館

3. イノベーティブ・シティ・フォーラム

「都市とライフスタイルの未来を描く」をテーマに2013年より開催しているイノベーティブ・シティ・フォーラムを、2016年度は、部分的にスポーツ・文化・ワールドフォーラムと会期を重ねて実施。

- ・時期:2016年10月 ・プログラムコミッティー:竹中平蔵、市川宏雄、南條史生、伊藤穰一
- ・主催:森記念財団、森アートミュージアム、アカデミーヒルズ ・共催:国際交流基金アジアセンター、MIT Media Labo



国際交流基金のオリンピック・パラリンピックに関連する取組 ③

(3) 東京2020年大会に向けた取組み(例)

	事業名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
リオ大会 文化芸術 事業	「日本の前衛美術 1955-1975 (仮称)」展			■				
	邦画名作特集上映 (1950~1970年代)			■				
	日本ブラジル・ポップスコンサート共同制作			■				
スポーツ・ 文化・ ワールド・ フォーラム	杉本博司・野村萬斎 三番叟公演 (渋谷 Bunkamura)			■				
	障がい者によるパフォーマンスアート事業 (パフォーマンス/シンポジウム)			■				
	Innovative City Forum (アジアセッション)			■				
アジア センター 事業	東京国際映画祭連携映画交流事業	■	■	■	■	■	■	■
	Dance Dance Asia (ストリートダンス交流事業)	■	■	■	■	■	■	■
	東南アジア現代美術展			■				
	TPAM in Yokohama 舞台芸術交流事業	■	■	■	■	■	■	■
	地方連携事業 (福岡市アジアンパーティー等)		■	■	■	■	■	■
	JFA×Jリーグ連携サッカー交流事業	■	■	■	■	■	■	■
	“日本語パートナーズ”派遣	■	■	■	■	■	■	■

東京2020オリンピック・パラリンピック